

日本農学アカデミー 第26回総会報告

日本農学アカデミー事務局

第26回総会は、書面審議にて開催された。

会員数187名に対し、書面提出数（書面表決書）121枚、未回答66枚であった。

総会では、

- ①令和4年度事業報告（案）
- ②令和4年度収支決算（案）
- ③令和5年度事業計画（案）
- ④令和5年度収支予算（案）

について審議が行われ、①～③の議案において、賛成121票・反対0票で、④の議案においては、賛成119票・反対0票で承認された。

総会に先立ち、7月4日にオンラインで開催された理事会には、理事11名、監事2名が出席した。

例年、総会後に開催されていたミニシンポジウムならびに懇親会は中止とした。

日本農学アカデミー第26回総会 次第

日本農学アカデミー第26回総会は、書面審議にて開催する。

1 議案

- 第1号議案 令和4年度事業報告（案）について
- 第2号議案 令和4年度収支決算（案）について
- 第3号議案 令和5年度事業計画（案）について
- 第4号議案 令和5年度収支予算（案）について
- その他

2 配布資料

- 資料1 日本農学アカデミー第26回総会 総会資料
 - 1-① 令和4年度の入退会者一覧
 - 1-② 「日本学術会議の独立性維持への支持声明」
 - 1-③ 令和4年度収支決算書（案）
 - 1-④ 監査報告書
 - 1-⑤ 秋のシンポジウム（案）
 - 1-⑥ 令和5年度収支予算書（案）

日本農学アカデミー第 26 回総会 総会資料

【第 1 号議案】令和 4 年度事業報告（案）について

1 会員数の状況

正会員 189 名、特別顧問 11 名、賛助会員 3 団体

(令和 4 年度末現在、年度末退会者数は反映済)

令和 4 年度の入会者 9 名、退会者 16 名 (資料 1-①参照)

2 ミニシンポジウムの開催

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、開催に至らなかった。

3 シンポジウムの開催

(1) 「日本の食料問題を考える ―ひっ迫する日本の食料需給―」

日時：令和 4 年 11 月 5 日 (土) 13:00~17:00

場所：ハイブリッド開催

主催：日本農学アカデミー、公益財団法人農学会

後援：東京大学大学院農学生命科学研究科、農研機構、ワールドウォッチ・ジャパン

| | |
|----------------------------|-------|
| 内容：激変する世界の食料事情と我が国の食料安全保障 | 末松広行 |
| 世界の「食肉と穀物」から考える | 三石誠司 |
| 食生活の豊かさとフードサプライチェーン | 藤島廣二 |
| 地域の特色を活かした飼料生産・流通の安定化を目指して | 増田 靖 |
| 食料自給力向上に向けた技術的対応 | 松田敦郎 |
| 総合討論 | 佐々木昭博 |

(2) 「食の未来―タンパク質食品―」

日時：令和 5 年 4 月 23 日 (日) 13:00~17:25

場所：ハイブリッド開催

主催：公益財団法人農学会、日本農学アカデミー、公益社団法人大日本農会

後援：東京大学大学院農学生命科学研究科、ワールドウォッチ・ジャパン

| | |
|------------------------|-------|
| 内容：代替タンパク質の技術開発動向と未来 | 佐藤佳寿子 |
| 循環型タンパク質としての食用コオロギについて | 渡邊崇人 |
| 大豆ミートと大豆利用の現状と課題 (展望) | 佐本将彦 |
| 新規タンパク質食品の受容について | 石川伸一 |
| 総合討論 | 阿部啓子 |

4 学術シンポジウム等の支援及び助成

理事会の承認を受け、次のシンポジウム等の支援及び助成を行った。

(1) 「東南アジアのアブラヤシ農園の持続的開発の問題点と課題」(共催)

日時：令和4年9月29日(木)

経費：3万円

(2) 「東日本大震災に係る食料問題フォーラム2022

——原子力災害11年の総括と福島県農林水産業の復興」(後援)

日時：令和4年11月19日(土)

経費：3万円

(3) 「水産からカーボンニュートラルの未来を展望する」(共催)

日時：令和4年11月25日(金)

経費：なし

5 総会、理事会等の開催

(1) 幹事会の開催

日時：令和4年4月20日(水) 10:00~12:00

場所：オンライン開催

(2) 理事会の開催

日時：令和4年7月6日(水) 10:00~12:00

場所・オンライン開催

(3) 第25回総会の開催

書面審議にて開催した。

6 会報の発行

令和4年度は、第37号(6月)及び第38号(12月)を作成し、ホームページに掲載した。

7 アカデミー便りの発行

会員間の情報共有のため、毎月発行し、会員に郵送した。

8 ホームページの充実

諸情報を逐次更新するとともに、会報やシンポジウムの案内を掲載するなど、内容の充実を図った。

9 声明の発出

日本農学アカデミー理事会は、一般社団法人日本農学会理事会、公益財団法人農学会理事会と共同で、2023年2月6日に「日本学術会議の独立性維持への支持声明」を発出した。
(資料1-②参照)

【第2号議案】令和4年度収支決算(案)について

(資料1-③及び1-④参照)

【第3号議案】令和5年度事業計画(案)について

- 1 会員の拡大
- 2 会報の作成
- 3 シンポジウム(11月)の開催(資料1-⑤参照)
- 4 学術シンポジウムの助成及び後援
- 5 総会、理事会等の開催
- 6 ホームページの充実
- 7 農学諸問題に関する調査等を実施し、日本農学アカデミー声明、提言及び会長談話等の発出
- 8 その他、本会の目的を達成するために必要な事業

【第4号議案】令和5年度収支予算(案)について

(資料1-⑥参照)

【その他】

1 『学術の動向』の買い上げについて(報告)

『学術の動向』の季刊化(年4回発行)に伴い、令和5年度の買い上げについて、令和5年5月10日に開かれた幹事会にて検討し、買い上げを継続するとともに、発行元である日本学術協力財団と価格交渉を行い、定価の8.5掛にて購入することとした。

2 「アカデミー便り」の発行について（報告）

令和5年度から『学術の動向』が季刊化（年4回発行）されたことに伴い、これまで『学術の動向』に同封して発送していた「アカデミー便り」の発行頻度・発送方法について、会長ならびに会報委員会担当理事にて検討を行った。その結果、令和5年度については、紙媒体にて年12回の発行を継続することとした。

次年度以降については、令和5年7月4日に開かれた理事会にて検討を行い、発行回数の縮小やメールの併用などについて検討することとした。

3 訃報

当アカデミーの特別顧問・會田勝美先生が令和5年1月8日に、副会長・鳥居邦夫先生が令和5年3月10日にご逝去された。謹んでご冥福をお祈りいたします。

令和4年度の入退会者一覧

入会者 (9名)

浅見 忠男

生駒 吉識

植田 充美

太田 明德

佐藤 秀一

篠崎 和子

奈良部 孝

西田 智子

山本 勝利

(敬称略)

退会者 (16名)

會田 勝美 (逝去)

荒井 綜一

岩永 勝

奥野 員敏

川村 周三

熊谷 亨

田名部 雄一 (逝去)

常脇 恒一郎 (逝去)

富田 文一郎

鳥居 邦夫 (逝去)

長谷部 亮

別府 輝彦

三橋 淳

安中 正実

山下 恭広

山本 進一 (逝去)

(敬称略)

日本学術会議の独立性維持への支持声明

2023（令和5）年2月6日

内閣府が令和4年12月6日に公表した『日本学術会議の在り方についての方針』（以下、内閣府方針と略）に対し、日本学術会議は、同年12月21日に『内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」（令和4年12月6日）について再考を求めます』とする声明を発出した。

学術には、普遍的な価値と真理を追求し、人類社会の公共財として人類全体に奉仕する役割がある。日本学術会議は、こうした学術の役割を実現するために、自律的で独立した活動を行ってきた。世界が直面する重要課題の解決のためには、政府等と日本学術会議の連携が重要であることは言うまでもないが、上述した学術の役割の実現のためには、日本学術会議法にも謳われている日本学術会議の独立性が担保されている必要がある。今回の内閣府方針は、日本学術会議法の改正を通して会員選考をはじめとした日本学術会議の自律的な活動に介入しようとするものであり、日本学術会議の独立性を毀損することが強く懸念される。日本学術会議の独立性の毀損は、日本学術会議が本来の役割を果たすことを妨げ、結果的に広く国民や人類の福利に影響すると考えられる。

ここに一般社団法人日本農学会、公益財団法人農学会及び日本農学アカデミーは、日本学術会議が発出した、内閣府方針に対して再考を求める声明を全面的に支持することを表明する。

一般社団法人日本農学会 理事会
公益財団法人農学会 理事会
日本農学アカデミー 理事会

日本農学アカデミー 2022年度収支決算書 (案)

(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：円)

| 科 目 | 予 算 額 ① | 決 算 額 ② | 差 異 ①-② | 備 考 |
|-------------------|------------|------------|------------|-----------------------------------|
| I 収入の部 | | | | |
| 会費収入 | 2,025,000 | 1,915,000 | 110,000 | 正会員分 1,765,000円 賛助会員分 150,000円 |
| 預金利息 | 40 | 40 | 0 | |
| 当期収入合計 (A) | 2,025,040 | 1,915,040 | 110,000 | |
| II 支出の部 | | | | |
| 会議費 | 200,000 | 200,995 | △ 995 | シンポジウム経費 |
| 諸謝金 | 150,000 | 153,644 | △ 3,644 | シンポジウム講師謝金 |
| 通信運搬費 | 200,000 | 85,894 | 114,106 | 総会・シンポジウム案内等、 切手・葉書 |
| 消耗品費 | 10,000 | 7,236 | 2,764 | 事務用消耗品 |
| 印刷製本費 | 60,000 | 59,695 | 305 | シンポジウムチラシ、封筒 |
| 図書購入費 | 869,550 | 911,520 | △ 41,970 | 月刊『学術の動向』購入費 (@480*1899) |
| 学会等助成費 | 150,000 | 60,000 | 90,000 | シンポジウム助成金 (@30,000*2件) |
| ホームページ管理費 | 123,124 | 123,124 | 0 | ホームページ更新料等 |
| 日本農学進歩賞共催負担金 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 業務委託費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 事務管理費 |
| 振込手数料 | 25,000 | 22,832 | 2,168 | 会費振込手数料(加入者負担)等 |
| 予備費 | 100,000 | 46,500 | 53,500 | 香典・供花代 |
| 当期支出合計 (B) | 2,187,674 | 1,971,440 | 216,234 | |
| 当期収支差額(C)=(A)-(B) | △ 162,634 | △ 56,400 | △ 106,234 | |
| 前期繰越額 (D) | 2,978,149 | 3,034,549 | △ 56,400 | |
| 次期繰越額 (E)=(C)+(D) | 2,815,515 | 2,978,149 | △ 162,634 | |

預貯金残高

| 内 訳 | 金 額 |
|------------|-----------|
| 現金 | 0 |
| 郵便貯金 | 7,881 |
| 三井住友銀行普通預金 | 1,970,268 |
| 三井住友銀行定期預金 | 1,000,000 |
| 計 | 2,978,149 |

監査報告

日本農学アカデミー令和4年度収支決算について監査した結果、適正に会計処理されていることを認めます。

令和5年5月16日

日本農学アカデミー

監事 小泉 健 

監事 梅本 雅 

秋のシンポジウム（案）

題目：東日本大震災がもたらした食料問題——福島県の現状と課題

企画趣旨：東日本大震災が起こってから12年が経ち、全国各地で復興が進んでいる。しかし、福島県では未だ住民の帰還困難地域がある上、耕作地の復元や原発の汚染処理水の問題があるなど、食料生産にも厳しい課題が残されている。本シンポジウムでは科学的な立場から食料生産および流通における福島県の現状と問題点を整理し、住民に寄り添った今後の復興の進め方を議論する。

日時：2023年11月11日（土）13時00分～17時00分（予定）

場所：東京大学弥生講堂（ハイブリッド方式）

主催：日本農学アカデミー、(公財)農学会、日本学術会議食料科学委員会・東日本大震災に係る食料問題分科会

総合司会：渡部終五（日本農学アカデミー理事）

開会挨拶：生源寺眞一（日本農学アカデミー会長）

企画説明：中嶋康博（東京大学大学院農学生命科学研究科、日本学術会議第二部会員）

座長：小松知未（北海道大学大学院農学研究院）or

小山良太（福島大学食農学類、日本学術会議連携会員）

基調講演：関谷直也（東京大学大学院情報学環・学際情報学府、日本学術会議連携会員）

「原子力災害と風評問題—リスクと対話の在り方—」

第1報告：福島県農林水産部 or 飯館村杉岡村長

「震災12年の取組と新しい産地形成に向けて」

第2報告：二瓶直登（福島大学食農学類）or

八木信之（東京大学大学院農学生命科学研究科、日本学術会議連携会員）

「放射能汚染対策12年の総括と科学的知見の蓄積」

第3報告：小山良太（福島大学食農学類、日本学術会議連携会員）

「食農連携に向けた福島大学の取組」

総合討論：中嶋康博（東京大学大学院農学生命科学研究科、日本学術会議第二部会員）

パネリスト：葛西優香（東日本大震災・原子力災害伝承館研究員）

加藤絵美（福島市カトウファーム専務）

斎藤美幸（金水晶会長）

登壇者4名

閉会挨拶：丹下健（(公財)農学会会長）

参考：加藤絵美（福島市カトウファーム専務）

<https://www.minyu-net.com/news/news/FM20230628-787906.php>

<http://katofarm-f.jp/>

斎藤美幸（金水晶会長）

<https://woman.nikkei.com/atcl/aria/column/19/013000056/032500056/>

日本農学アカデミー 2023年度収支予算書 (案)

(2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：円)

| 科 目 | 予 算 額 | 備 考 |
|------------------|-----------|---------------------------------|
| I 収入の部 | | |
| 会費収入 | 2,025,000 | 正会員、賛助会員 |
| 預金利息 | 40 | 2022年度実績(40円) |
| 収入合計(A) | 2,025,040 | |
| II 支出の部 | | |
| 会議費 | 200,000 | 幹事会、理事会、総会、シンポジウム開催費 |
| 諸謝金 | 150,000 | シンポジウム講師謝金等 |
| 通信運搬費 | 200,000 | 総会等案内、アカデミー便り送付、切手 |
| 消耗品費 | 10,000 | 事務用消耗品 |
| 印刷製本費 | 60,000 | ポスター、封筒等印刷費 |
| 図書購入費 | 869,550 | 『学術の動向』購入費(@1650×0.85×155冊×4か月) |
| 学会等助成費 | 150,000 | シンポジウム等の助成金(@30,000×5件) |
| ホームページ管理費 | 123,124 | ホームページ更新料等((公財)日本学術協力財団) |
| 日本農学進歩賞協賛金 | 100,000 | (公財)農学会 |
| 業務委託費 | 200,000 | 事務管理費((公財)日本学術協力財団) |
| 振込手数料 | 25,000 | 会費振込手数料(加入者負担)等 |
| 予備費 | 100,000 | |
| 支出合計(B) | 2,187,674 | |
| 収支差額(C)=(A)-(B) | (162,634) | |
| 前年度からの繰越金(D) | 2,978,149 | |
| 次年度繰越(E)=(C)+(D) | 2,815,515 | |